

【樹木・草花の部屋】

カイヅカイブキ（ヒノキ科ビャクシン属 *Juniperus chinensis* 'Kaizuka'）

和名；カイヅカイブキ **別名**；カイヅカ、カイヅカビャクシン **英名**；

マツ目 常緑小高木

原産地；中国、日本

花言葉；

花の色；緑



← 写真－1 カイヅカイブキの樹形

撮影日：2012年10月13日

撮影場所：奈良市営鴻池球場にて

撮影者：Mさん

カイヅカイブキはイブキ（ビャクシン）の変種が園芸用として改良されたものです。

カイヅカイブキのカイヅカは漢字で「貝塚」と書きますが、語源は不明。イブキはイブキビャクシン（伊吹柏楨）の略です。

写真－2 カイヅカイブキの枝 ⇒

撮影日：2012年10月13日

撮影場所：奈良市営鴻池球場にて

撮影者：Mさん

丈夫さと用途の広さで幅広く普及している針葉樹で、日当たりの良い場所、砂地など、水はけのよい場所で育つ陽樹です。大気汚染や乾燥、潮風にとっても強いので、公園や道路の分離帯などにも利用されています。



【樹木・草花の部屋】

写真-3 カイズカイブキの葉 ⇒

撮影日：2012年10月13日

撮影場所：奈良市営鴻池球場にて

撮影者：Mさん

ビャクシンは葉が針のように細くとがっていますが、カイヅカイブキは丸みのある鱗状になります。枝は太く、立ち上がってその脇から出る側枝が螺旋状にねじれながら伸びていき、枝の先端が揺らめく火炎のような独特の形になります。



剪定は、

・自然樹形

刈り込まないで新枝の芽先を内へ内へと残して芽摘みを繰り返すことで、自然の円錐状の樹形に保つことができます。

・刈込

刈り込みに強いので、生け垣や円筒状や球形に刈り込む方法が一般的です。

この場合強く剪定したり樹勢が弱ると、スギの葉に似た針状の葉を付けた枝を生じることがあります。これは鱗片葉をもつビャクシン類共通の特徴で、一般に「先祖がえり」と呼ばれています。小さいうちに、見つけ次第、切り取ることが大事。大きく成長してからでは、枝を切り取ることになり、大きな穴が開くなど、景観を損ねるようになります。

カイヅカイブキは枝の先端に緑の葉をつけるだけで、枝だけの部分には再び緑の葉をつけません。従って葉がなくなるほど剪定すれば枝だけになり外観が大変悪くなります。通常、剪定は葉の部分の形を整えるだけですが、前回、刈り込んだ部分までは刈込むようにすれば、広がりや、ある程度は抑制することができます。幼樹の時から、こまめに刈込を行えば、枝の広がりを抑えたコンパクトな綺麗な樹形に保つことが出来ます。道路に大きく張り出した樹形をよく見かけますが、枝が広がり過ぎてからは、小さくすることは、かなり、無理があります。この場合は、天と枝先に緑の葉を残した枝を残し、内部に光が入るように枝透かしを行い、残した枝の付け根に新芽が出るのを待って新芽から先を切り落とす方法もあります。が、数年単位のかかりな時間が必要です。また、完全な修復は期待できません。

<ちょっと一言>

ナシと近接して植えると赤星病を媒介するため、主なナシの産地には赤星病防止条例があり、植栽規制と除去命令が制定されています。